

「京都御苑ずきの御近所さん」

第1回：冷泉為人，貴実子ご夫妻



冷泉為人様の著書を拝見させて頂くと、冷泉家は以下のように紹介されています。

『平安・鎌倉の歌聖と仰がれた藤原俊成，定家父子を祖先に持つ「和歌の家」。冷泉の家名を名乗るのは鎌倉時代の^{ためすけ}為相からで，その為相から現代の為人まで，25代約750年間，「和歌の家」として家職を続けている。そしてその前にも藤原道長の11番目の子で，6番目の息子である長家からはじまる「和歌の家」の^{みこひだりけ}御子左家，すなわち長家，忠家，俊忠，俊成，定家，為家とつづく，ほぼ280年の長い歴史がある。したがって，長家から数えると，冷泉家は千年ほどになる。』

為 人：「家名」というのはわかりますか。平安・鎌倉時代は藤原氏が多いわけで、家の屋号みたいなものが出てきます。それが家名になります。藤原氏ばかりやから、冷泉通りに住まいしていたので冷泉という家の名前が付くし、一條さんは一条通りに住まい、九條さんは九条通り住んでいるのでそういう家の名前が付いた。田舎などで同じ苗字やったら下の名前で言うか、家の屋号で「どことこの誰だれさん」というようにゆうてたと思う。この家名というのはそういう意味なんだということ Understandingしてください。

公益財団法人 冷泉家時雨亭文庫を設立（1981.4.1）されてから、35年の節目を迎えられますが、御苦労、これからの展望をお聞かせください。

為 人：公益財団法人ということ言えば、先代が設立する時に非常に悩んで大変だったと思うんですけども、この財団法人になっていたからこそ、平成7年からの解体修理が上手にいったと思います。それがもしもなっていなかったら、この解体修理の時に10年間で10億円お金使ったんです。その時に財団で5億円お金集めたわけです。残りの5億円は国からの補助金でいただいているわけですから、皆さん方が納められた税金から補助金を頂戴しているということで、一人の家、冷泉の家だけでは到底無理だと思いますね。でも、今の政府の人達は、自分の目の前

の大事なことでしか考えておられないので、文化財の保存、修理費ということで言いますと、お隣の韓国よりも予算額は少ないです。また、フランスの文化財関連予算は、国の予算の1%位かけているはずなんです。ところが日本は0.0何%やと。こないだもね、私、立命館大学の文化財の防災の研究（歴史都市防災研究所）に携わっているんですが、そこで、小西美術工藝社のイギリス人社長バーナード・アトキンスさんが、妙心寺の山雪の襖絵をアメリカから買い戻したことが話題になっていました。T先生は「外国人に言われて、恥ずかしいこっちゃ。そんなこと皆さん方、どない思っておられますか！」とゆうてはりました。本当に、それが現状だと思いますね。でもこないして、環境省の方が我々を訪ねて頂くということは、大分空気が変わってきたなと思います（笑）。歴史と文化は大事な話やと思うんですけどね。それが外国へ行ったときには必ず問われるわけで。日本人とはどんな民族かと問われた時に答えられなかったら相手にして貰えない。世の中の風潮が実学ばかりゆうて、哲学がないのは、どうもやっぱりいかんと思いますね。

展望ということで言えば、冷泉家の財産をどないして維持していくかということで、公益財団法人の維持会員を増やすことがやっぱりひとつの大きな課題です。会員を増やすことしかないと思いますね。結局、今の所は文化財を所蔵される方の熱意みたいなもので日本の文化財は守られていると思うんですね。国立の博物館とか公の博物館とか、美術館等もほとんど国や地方公共団体の予算でまわっているからこれもしんどいと思いますね。そして、その所で見受けられるのは外から見ていて、いわゆる事務方と学芸とが上手に行っているのかなと（笑）。本当にこれは何でもないことなんやけども、ぎくしゃくしているという風に思わざるを得ない。これはまあ、日本人の気の小さい所なんかもしれへんけれども、やっぱりそれではいかんと思いますね。抽象的な言い方ですけども、日本の歴史と文化を守るために頑張っているんやという義と言うんでしょうか、大義と言ったら大げさになりますけれども、そういう意識がどっか我々戦後の人間はなくなってしもたんちゃいますか。社会に貢献するということがなくなってしもうたと思いますね。だからそういうことと言えば、母親が自分のお腹を痛めた子どもを放ったらかしにして虐待しているというのは僕らは分かりませんわ。そして、夫婦揃ってパチンコしていて、暑い車の中に子どもを放っというて死なしてしまうという。考えられへんことが起こっているということで。そんな所から日本の文化財守ってくれと言うても届かないというのが当たり前だと思いますね。それをこちらにどうして向けさせるかいうたら大変な問題だと思いますね。日本の文化を大切にしないと、グローバルになればなる程、やっぱり世界で物を言った時に聞いてもらえないと思うんですけど。それは時間がかかるかも分からないけど、大事なことでないかと思っているんですけどね。最終的に、やはり教育だと思いますね。だから小・中学校の教育をちゃんとするというので、僕はこれは前からの持論なんですけども、小・中学校の先生は普通の人よりも高給で雇えと。そして余分なことを課さないようにしないといけないと思います。結局、各時代の折々に答えがあるということで、その折々に考えざるを得ないということでしょうね。だから今やったらまさにひとつの案としてサポーターをどないして増やすかということでしょうね。で、その所で何と言うんでしょうか、僕が経験したことで言えば、解体修理の時に展覧会させていただいたんですけど、その展覧会させていただいた時にもいろんなことを勉強したわけです。国立の博物館であったら、財団とは言いながらサポ

ーターを募集する要項というような私的なことを国立の施設に置いてもらうたら困るという所もあるわけで。もうちょっと大きく物を考えてくれへんかと。日本の文化を守るためにお願いしているんやから、そういう観点を認めてもろうて維持会員を増やすとか、寄付をお願いするということで認めて貰えないかという事で大分議論致しました。でもそこで認めてくれる所と認めてくれない所があったりするわけです。その当たり、やっぱりまだまだ日本はダメですね。そういうふうな所で置いてもらったら、見ず知らずの人が冷泉の家に寄付をして下さる人があるわけです。だから世の中にはそういうことが分かる人もいらっしゃるわけです。そういう人の所にどないしてボールを投げたらええのかということが非常に難しいわけです。無闇やたらにそれはできないわけですから、そういう公のシステムを使わせていただくと言うんでしょうか、マスメディアを使わせていただく方法しかないということです。だから、細く長く、そういうことを考えて行かざるを得ないという、まさにこれは抽象的な言い方ですけども、そういうことを常に考えおかないかんということだと思えますね。ま、それがまさに展望ということだと思えますね。

愛犬の散歩に御苑を利用されていると伺いました。何というお名前ですか？著書の中には、五郎、六輔、十郎が登場していましたが…

貴実子：きゅうべえ（笑）。九と、兵隊の兵と衛（まもる）ゆう字。以前は、太郎も、大二郎もいた。

為 人：九兵衛は紀州犬。

貴実子：六輔は柴。五郎は雑種。十郎はポインター。十郎は御所で拾うた。十郎を連れて歩いていたら、「サム！」とか言って寄ってきはる人がいはってね。「ええ?!」言うて。そしたら長いこと御所で野良やっていた犬だったんです。サムという名前を付けて。御所のね、スターやってみたいですよ。でも皆心痛めてた。それで、私が拾ってすごい感謝して貰えたんです。

為 人：でも御所では、田舎とは違う、犬の名前まで、まさに京都らしい名前がたくさんありますなあ。びっくりしたわけで。

貴実子：いろんなのあったな。

為 人：カントとかね（笑）。メス犬でカントちゅうのがありましたですな。

貴実子：いろんなのがおるね、御所は。今はあんまり変わったん聞いたことないかな。リュウマちゃんとか。そんなのが多いな。今、レオちゃん。

為 人：やっぱり京都人らしい名前がありますね。歌舞伎役者に見立てた名前つけてはる人とか。

貴実子：うちの子最近、他の犬が近寄ったらガーガー怒るからあんまり近寄らへんから分からへんな（笑）。

為 人：あのねえ、時々気に入らんかったらね噛みおるんですわ。せやから困るねん。難儀ですわ。

貴実子：こないだ、もうなんか謝りに行ってきたもん、家に。あの子何ちゅう犬やったかいな（笑）。

為 人：耳噛んでしもうて。で、傷ついたゆうて、謝りに行って。

貴実子：でもそういう御所って犬連れ、何ていうのかな、犬友が多いですよ。犬連れて、すごく仲良くなって。色んな人いますよ。

為 人：で、何か知らない犬、「誰だれちゃんのお父さん」ゆうて。僕なんかすぐに「冷泉さん」ちゅうのわかってしまってもう困っているんですけど、何もできんですわ（笑）。

京都御苑へのリクエストなどをどうぞ。

貴実子：京都でどこが好きですかという話で、「京都御苑」ってよう答えて。御苑なんて言うとなんか別の所みたいで。京都御所って、しょっちゅう言いまくっているんですけどね。前も言ったかな、撮影を制限されているっていうの、あれなんとかして貰わなあかんわ。雑誌なんかの撮影は御所の木だけでもあかんで言わはるでしょ。インタビューに答えて、御所の木が好きと言うと、是非ね、その木の下で撮影させてくださいとかね、どこの木か言って下さったら映しますとかね、言わはるんですけど。たちどころみんな断られてきて、あきませんでしたゆう話が多いですね。広告するのがいいかどうかわかりませんが、こんなにみんなに愛されているのに、御所の写真撮ったらアカンとは。

為 人：でも本当にそういうことと言えば、写真で皆様方に紹介したらいいですよ。近衛さんとこのサクラは、インターネットかなんかで紹介されているわけでしょ？そのまま上手に使うていきはったら、上手いこと宣伝もできるんちゃうかなと思うんです。

貴実子：でもね、御所の綺麗なのはイチョウやね。イチョウ綺麗やなー！最高やね。あっちこっちにイチョウあるでしょ。で、イチョウは真っ黄っ黄の時もきれいけど、落ちた時も綺麗ですよ。本当に絨毯みたいになって。モミジも落ちて、色とりどりの綺麗な絨毯になったみたい。本当にそんな感じでね。最高ですよ。そやから聞きたいねん、こっちの桂宮邸の前でも、なんであんなようけイチョウ植えんの？って。思いませんか？変なとこにあのイチョウ植わっていませんか？

為 人：あそこ固まってね。

貴実子：なんであんなごつつなる木を。ごつつなるまでに、何とかしよう思っはんのやろうか。ようけ木が生えている真ん中に、イチョウをわざわざ移植してはるの、どうかと思うであれは。イチョウなんておっきおっきなるのに。あんな間隔で植えたらそんなもんえらい目に合うわな、将来な。でも最近、松枯れも激しいね。

為 人：本当に激しいね。今植えてはるマツは違うマツなんかな？あれ。どこかの強いマツなんかな。松くい虫にやられるんちがうか。

御苑では普通のマツを植えています。環境保全のため薬剤散布もしていません。

貴実子：ようけ枯れていますね。松くい虫がうちに来たらえらいことやと思っているんですよ。

為 人：なんか聞いたことあるよ。御所では自然のままにするんやということ。

為 人：キノコをずっと探している人もいはるし、鳥をずっと見ている人もいはるし。

貴実子：キノコすごいですね。7月の初め頃かしら。キノコって秋っていいですが違いますね。7月の初めの梅雨の合間にもものすごくありますよね。

2016年3月8日 インタビュー
聞き手：田村省二、山本昌世、石田真理子

○冷泉為人さま



1944年、兵庫県生まれ。関西学院大学大学院文学研究科博士課程単位取得。冷泉家二十五代当主、冷泉家時雨亭文庫理事長。また、立命館大学特別招聘教授も務める。専門は日本美術史（近世絵画史）。著書に『冷泉家・蔵番ものがたり「和歌の家」千年をひもとく』（NHK出版）、編著に『京都冷泉家の八百年—和歌の心を伝える』（NHK出版）、共著に、『五節供の楽しみ—七草・雛祭・端午・七夕・重陽』『瑞穂の国・日本—四季耕作図の世界』（ともに淡交社）、監修に『冷泉家 時の絵巻』『冷泉家 歌の家の人々』（ともに書肆フローラ）などがある。

○冷泉貴実子さま



1947年、藤原俊成・定家を祖とする「和歌の家」冷泉家二十四代為任の長女として生まれる。二十五代当主・為人夫人。公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事，事務局長。著書に『冷泉家 八〇〇年の「守る力」』（集英社新書）、『京の八百歳 冷泉家歌ごよみ』（京都新聞出版センター）、『花もみぢ 冷泉家と京都』（書肆フローラ）

公益財団法人冷泉家時雨亭文庫のホームページ URL <http://reizeike.jp/>